
無言劇

夢小路 一瞬

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

無言劇

【Nコード】

N0083B

【作者名】

夢小路 一瞬

【あらすじ】

声無きドラマ。二人の間にいつの間にかできていた、溝。それが先か、裏切りが先か・・・

（前書き）

アルフィーの同名の曲の歌詞を元に書き上げました。
短くなっちゃいましたけど、歌詞に忠実に書いたつもりです。

俺はいつものように、君の住むマンションに行き、そして402号室のベルを鳴らした。

「はあい」

明るくドアを開けた君は、目の前に俺がいることに気付くと、その次の瞬間、顔が真っ青になった。

「あつ、あのつ、今はちよつと……」

「なんでだよ、すげえ久しぶりに来たっていうのに……」

口ごもる君を押しつけて俺は部屋に入った。

「ん？」

上がり口になぜか男物の革靴が脱いである。

（確か一人暮らしだったはず……）

そのとき、奥の部屋から声がした。

「どーしたの？ 誰が来たの？」

聞き覚えのある声だった。

「あの、ホントに、ちよつと……」

俺の腕を掴んでいる君を身体ごと引きずるようにして俺はずかしく奥に進んだ。

奥の今に人影があった。

テレビを見ていたそいつは、振り返って俺を見た。

そしてさっきの君と同じように、一瞬で顔が真っ青になった。

「はっ……」

「あつ、あのっ、その……。ちょっとテレビとビデオの調子が悪くって、見に来てもらったの……」

君は今にも泣き出しそうな顔と声で、俺に向かってそう言った。

（演技派女優は違うねえ……）

最初のうちは妙に冷静でいられたのだが、やはりその状態は長続きしなかった。

俺は、俺の顔を見て呆けているそいつの胸ぐらを掴んでこう怒鳴った。

「てめああ！　どういっつもりだあ！？」

「はっ……」

俺の怒鳴り声でそいつはすっかりびびってしまった。

君は君で涙目になりながら俺の顔を見ている。

「けっ、そう言うことかよ……」

俺は掴んだ胸ぐらを離し、そいつをドン、と押しやった。

「あつ、いや、あの……そう言うことじゃなくって……」

言い訳しようとするそいつの顔には今までに見たことのないひきつった作り笑いが浮かんでいた。

君はとうとう俺から目をそらした。後ろめたさにとまどう視線が、俺から去っていった。

「俺あ、ただの道化役かあ！　お前達二人を楽しませるための？」

！　は！　冗談じゃねえぞ！　後はお前らで勝手にやってろや！！」

俺は何とかそれだけを言うと、靴を履いて後ろ手にドアを閉め、駆け出した。

後ろも振り返らずに道を駆けだした俺は、しばらく走ってその速

度を落とした。

ふと目にした白いポスターには、「ハネムーン」の五文字が踊っていた。

こんなことになっていなければ、俺は君とハネムーンに飛び立っていたはず……

そう思うと無性に悔しくなって、俺はそのポスターをびりびりと引き裂いた。

手のひらから破れたポスターがひらひらと風に散っていく。

何枚も、何枚も、そうやって目にするポスターを破ってはみたものの、俺の心には、やり場のない悲しみだけが残った。

俺はまた足を早め、自分の部屋へ駆け込んだ。

寒い寒い部屋の中で、俺はただ両足を抱えているだけだった。

しばらくして俺はその体勢のまま、ごろんと転がって天井を見ていた。

唇を噛んで、こらえきれずに涙を流した。

（なんで……？ いつから……？ よりによって、あいつだなんて……）

君の部屋に俺より先に存在していたのは、驚いたことに、俺の一番の親友（だと思っていたヤツ）だった。

君のことをいろいろと相談したり、何だかんだと話題にしていたことはあったものの、まさかそんなことになっていようとは思ってもしなかった。

俺自身の考えが甘かったのか、行動に隙があったのかそれは分からない。

しかし……。

堪えようとしても止まらない涙をただ流し続け、俺は一つの結論にたどり着いた。

俺は『ドラマの中の役者』だったと。

俺はそのドラマの中で主役を演じていたつもりが、実はそれはミスキャストで、俺は単なる脇役の1人に過ぎなかったのだと。

俺がどんなに泣き言を言っても、それはドラマには全く不要のものなのだということ。

そして、このドラマは、台詞の要らないドラマで、タイトルは『無言劇』。

本当の主演は、『冷め切った心とココロ』だったのだと……。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0083b/>

無言劇

2010年10月10日06時51分発行